

## 渡 辺 義 介 賞



(株)日本製鋼所代表取締役社長  
館野万吉君

### 大型高品質鋼の開発による内外産業発展への貢献

君は、昭和 15 年 3 月東京帝国大学工学部冶金学科卒業後直ちに(株)日本製鋼所に入社、室蘭製作所製鋼工場に勤務、同工場長、鍛錬工場長、鍛圧部長、第一工務部長、取締役副所長、常務取締役所長の後本社に移り、専務取締役社長室長、同営業本部長、副社長を経て、昭和 54 年 6 月社長に就任、今日に至っている。

この間、我が国および世界の鉄鋼業の進歩への君の貢献はまことに卓越しており、その主要な業績は以下に述べるとおりである。

1. 入社以来、君は一貫して大型鋼塊の製造法と品質を改善し、大型電弧炉、溶鋼の真空処理技術の導入、炉外精錬真空処理法の開発などに先駆的な役割を果し、超大型高純度鋼塊製造法を確立した。とくに 400~570 ton 鋼塊、550 ton 铸鋼の開発は、製鋼造塊技術史に残る成果の一つに数えられよう。また君は鋼材の鍛錬、圧延についても、大型鍛鋼品の内部空隙欠陥の自由鍛造による圧着(昭和 37 年、学位論文)、日本原子力発電(株)東海 1 号炉用压力容器鋼板の国産化など、注目すべき業績をあげた。

これらにより君は、商工省発明賞、当協会渡辺三郎賞、大河内記念技術賞、科学技術庁長官賞、日本産業技術大賞(日刊工業新聞)、藍綬褒章など数々の受賞に輝いている。

2. 次に経営の立場においては、室蘭製作所の設備近代化、製品の大型化、製品の多様化を指導して、今日同製作所を世界の最先端に置くと共に、ローター軸材、原子炉部材、超大型压力容器(単基 1 200 ton)、各種クラッド鋼板などを電力および原子力発電、鉄鋼業、化学工業、造船工業その他の産業界に提供して、昭和 40 年代の経済発展期における巨大化技術を支える基盤の一つとして、わが国産業の諸分野に寄与するところが絶大であった。さらには鋼と機器装置の総合経営を指向して、超小型サイクロロン、セラミックス射出成型機、各種プラント機器などにおいて見るべき成果を挙げている。製品の品質保証についても、これを経営の根幹に据えて率先強力な指導力を発揮し、昭和 58 年度日科技連デミング賞実施賞(全社)を受賞している。

また君は、通商産業省「素形材問題総合委員会」委員長として構造的な変革下にある素材および素形材産業の新展開を指導しつつある。

3. このような成果は、当然海外の業界および各層顧客の認めるところであり、西ドイツ、米国その他の欧米諸国、ソ連、中国などへの輸出あるいは技術移転における日本製鋼所の国際的な評価と地歩は、ますます確固たるものとなっている。